

# Oracle® Virtual Desktop Client

## バージョン 3.0 リリースノート



2011 年 8 月

---

# Oracle® Virtual Desktop Client: バージョン 3.0 リリースノート

Copyright © 2011, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合、次の通知が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用了ことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle と Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。Intel、Intel Xeon は、Intel Corporation の商標または登録商標です。SPARC のすべての商標はライセンス規定に従って使用されており、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMD ロゴ、および AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices の商標または登録商標です。UNIX は X/Open Company, Ltd. からライセンスされている登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

## 概要

パート番号: E24301-01

このマニュアルには、このバージョンの Oracle Virtual Desktop Client のシステム要件および新機能に関する情報が記載されています。

Oracle Virtual Desktop Client のインストール、アップグレード、およびアンインストールを行うための手順について説明しています。

---

---

# 目次

はじめに .....	v
1. 対象ユーザー .....	v
2. ドキュメントの構成 .....	v
3. ドキュメントのアクセシビリティ .....	v
4. 関連ドキュメント .....	v
5. 表記規則 .....	v
1. 新機能 .....	1
1.1. バージョン 3.0 の新機能 .....	1
1.1.1. マルチモニターサポートの拡張 .....	1
1.1.2. ユーザーインターフェースの改良 .....	1
1.1.3. セッション中の動的な設定変更 .....	1
1.2. version 3.0 での変更点 .....	1
1.2.1. コマンド名の変更 .....	1
1.2.2. 終了キーの組み合わせが Host キーに変更されました。 .....	1
1.2.3. ログ設定の変更 .....	1
1.3. バージョン 3.0 でサポートされるプラットフォーム .....	2
1.4. 製品の要件 .....	2
1.5. 既知の問題 .....	2
1.6. ドキュメントの問題 .....	3
2. Oracle Virtual Desktop Client のインストールとアップグレード .....	5
2.1. Oracle Virtual Desktop Client を Microsoft Windows プラットフォームにインストールする方法 .....	5
2.2. Oracle Virtual Desktop Client を Mac OS X プラットフォームにインストールする方法 .....	5
2.3. Oracle Virtual Desktop Client を Linux プラットフォームにインストールする方法 .....	5
2.4. Oracle Virtual Desktop Client をアンインストールする方法 .....	6
2.5. Oracle Virtual Desktop Client をアップグレードする方法 .....	6



---

# はじめに

Oracle Virtual Desktop Client バージョン 3.0 リリースノート には、このバージョンの Oracle Virtual Desktop Client のシステム要件および新機能に関する情報が記載されています。このマニュアルでは、Oracle Virtual Desktop Client のインストール、アップグレード、およびアンインストールの手順について説明します。

## 1. 対象ユーザー

このドキュメントは、Oracle Virtual Desktop Client の新規ユーザーを対象にしています。Web 関連のテクノロジーに関する知識と、Windows および UNIX のプラットフォームに関する一般的な知識が必要となります。

## 2. ドキュメントの構成

このドキュメントは、次のような構成になっています。

- [1章新機能](#)。このバージョンの Oracle Virtual Desktop Client の新機能について説明します。
- [2章Oracle Virtual Desktop Client のインストールとアップグレード](#)。Oracle Virtual Desktop Client のインストール、アップグレード、およびアンインストールの手順について説明します。

## 3. ドキュメントのアクセシビリティ

オラクルでは、オラクルの製品、サービス、およびサポートドキュメントについて、障害を持つ方々を含むすべてのユーザーにとって使いやすいものにしたいと考えています。オラクルのドキュメントには、支援技術を使用してユーザーの方々が情報を利用できるような仕組みが備わっています。このドキュメントには HTML 形式のものが存在し、障害を持つ方々でも簡単にアクセスできるようなマークアップを使用しています。アクセシビリティの標準は、年々進化を遂げています。オラクルでは業界をリードする他の技術ベンダーと協力して、技術的な障害を取り除くための努力を続けており、すべてのお客様にとって利用しやすいドキュメントの製作に務めております。詳細については、オラクルのアクセシビリティプログラム の Web サイト <http://www.oracle.com/accessibility/> を参照してください。

### ドキュメント内のコード例のアクセシビリティ

このドキュメント内のコード例は、スクリーンリーダーで正しく読み取れない場合があります。コードの記述規則では、閉じ中括弧が登場する行はその他の文字を含まないことになっていますが、一部のスクリーンリーダーでは角括弧または中括弧だけが含まれるテキスト行を読み取れないことがあります。

### ドキュメント内における外部 Web サイトへのリンクのアクセシビリティ

このドキュメントには、オラクルが関与しない他社の Web サイトへのリンクが記載されている可能性があります。そのような Web サイトにおけるアクセシビリティについては、オラクルによる評価や意見表明は行っていません。

### Oracle Support へのアクセス

お客様は、My Oracle Support を通じてオンラインでのサポートをご利用いただけます。詳細については、<http://www.oracle.com/support/contact.html> (聴覚障害をお持ちの方は <http://www.oracle.com/accessibility/support.html>) を参照してください。

## 4. 関連ドキュメント

この製品のドキュメントは、次のサイトで入手できます。

<http://www.oracle.com/technetwork/jp/indexes/documentation/virtualdesktopclient-411777.html>

## 5. 表記規則

このドキュメントでは、次のような表記規則を使用しています。

表記規則	意味
ボールド	ボールド体の個所は、アクションに関連するグラフィカルユーザーインターフェース要素、テキストや用語集で定義された用語などを表しています。
イタリック	イタリック体の個所は、書名、強調語句、特定の値が指定されるプレースホルダ変数などを表しています。
モノスペース	モノスペース体の個所は、パラグラフ内のコマンド、URL、例示されているコード、画面上に表示されるテキスト、ユーザーが入力するテキストなどを表しています。

---

# 第1章 新機能

この章では、このバージョンの Oracle Virtual Desktop Client の新機能と、以前のリリースからの変更点について説明します。

## 1.1. バージョン 3.0 の新機能

このセクションには、Oracle Virtual Desktop Client バージョン 3.0 の新機能の詳細が記載されています。

### 1.1.1. マルチモニターサポートの拡張

複数のモニターに対するサポートが拡張されて、2 台以上のモニターにアクセスできるようになりました。ノンリニアのモニター設定もサポートされるようになりました。

### 1.1.2. ユーザーインターフェースの改良

ユーザーインターフェースに対して、次のような変更が行われています。

- 設定ダイアログの構成が変更されました。
- セッション中のウィンドウモードから全画面モードへの切り替えが、ユーザー側で行えるようになりました。
- セッション中の設定変更が行えるように、ウィンドウモードではメニューバーが、全画面モードではツールバーが、それぞれ使用できるようになりました。
- 接続状態の報告機能が改良されました。
- ホットキーに代わって、ホストキーが実装されました。
- キーボードキャプチャオプションがフルスクリーンモードで使用できるようになりました。この機能によって、押したキーをリモートセッションに送信できるようになります。

### 1.1.3. セッション中の動的な設定変更

このリリースでは、セッション中に動的な設定の変更が行えるようになりました。たとえば、セッション中にオーディオデバイスを設定したり、ウィンドウモードと全画面モードの切り替えを行ったりすることが可能です。

ウィンドウモードでは構成メニューが、全画面モードではツールバーが、それぞれ使用できます。

## 1.2. version 3.0 での変更点

このセクションでは、Oracle Virtual Desktop Client の以前のリリースからの変更点について、詳しく説明します。

### 1.2.1. コマンド名の変更

このリリースでは、Oracle Virtual Desktop Client を実行するために使用するコマンド名が `vdc` から `ovdc` に変更されました。

### 1.2.2. 終了キーの組み合わせが Host キーに変更されました。

以前のリリースでは、セッションから切断するための終了キーの組み合わせを設定することができました。デフォルトの設定は、左 Shift-左 Ctrl-左 Alt キーでした。

これは、Host-Q キーの組み合わせに変更されました。Host はユーザーが定義可能なホストキーです。デフォルトの Host キーは左側の Ctrl です。

### 1.2.3. ログ設定の変更

以前のリリースでは、設定ダイアログのタブを使用してログを設定することができました。このリリースでは、`--logginglevel` コマンドオプションを使用してのみ、ログを設定することができます。

## 1.3. バージョン 3.0 でサポートされるプラットフォーム

このバージョンの Oracle Virtual Desktop Client は、次のオペレーティングシステムでサポートされています。

- Microsoft Windows XP (32 ビットおよび 64 ビット)
- Microsoft Windows Vista (32 ビットおよび 64 ビット)
- Microsoft Windows 7 (32 ビットおよび 64 ビット)
- Mac OS X 10.6
- Ubuntu Linux 10.04 (32 ビットおよび 64 ビット)
- Red Hat Enterprise Linux 6 (32 ビット)

## 1.4. 製品の要件

- Sun Ray Software。Sun Ray Software バージョン 5.1 以降。



### 注記

Oracle Virtual Desktop Client へのアクセスが有効になっていないと、Sun Ray Software で使用することはできません。詳しくは、[Sun Ray のドキュメント](#)を参照してください。

- Oracle Virtual Desktop Infrastructure。Oracle Virtual Desktop Infrastructure バージョン 3.2.2 以降
- Java Runtime Environment。Oracle Java の最新バージョンをクライアントコンピュータにインストールする必要があります。Oracle Virtual Desktop Client のインストール時に、Oracle Java の最新バージョンをダウンロードしてインストールするオプションを使用できます。

## 1.5. 既知の問題

このセクションでは、Oracle Virtual Desktop Client の本リリースに関する既知の問題を紹介します。

### 12857515 – --nospan コマンドオプションに関する問題

問題: 1 台のモニターでの拡張表示を可能にする `--nospan` コマンドオプションが機能しません。複数のモニターにわたって表示されます。

解決方法: 「表示」タブで、セッションを表示する画面を選択します。

### 12830249 – オーディオが正しいデバイスで再生されない

問題: 「オーディオ」タブでデフォルト以外のデバイスが設定された場合、オーディオが正しいデバイスで再生されません。この問題は Windows のクライアントコンピュータで発生します。

解決方法: 「デバイス」メニューを使用してデフォルトのオーディオデバイスに切り替えてから、デフォルト以外のデバイスに戻します。

### 12808219 – VPN を使用した場合にオーディオが機能しない

問題: Virtual Private Network (VPN) 経由でサーバーに接続する場合、セッションでオーディオが聞こえません。この問題は、最大転送単位 (MTU) が 500 などの低いレベルに設定されている場合に発生します。

解決方法: オーディオのパフォーマンスが改善されるまで、「ネットワーク」タブの「最大転送単位」設定を上げます。

### 12800325 – 複数モニターを使用した場合のフルスクリーンモードのツールバーの問題

問題: 複数のモニターを使用している場合、1 台以上のサブモニターでフルスクリーンモードツールバーが表示されない場合があります。この問題は、それぞれのモニターの表示解像度が異なる場合に発生します。



解決方法: メインモニターのフルスクリーンモードツールバーを使用します。代わりに、Host-n キーの組み合わせを使用して目的のモニターに移動します (n は任意の数字)。

## 12846743 – Mac クライアントの内蔵マイクロフォンが使用できない

問題: Mac クライアントコンピュータでは、セッション中に内蔵マイクロフォンを使用できない場合があります。この問題は、クライアントコンピュータに外付けのマイクロフォンが接続されている場合に発生します。この結果、クライアントコンピュータ上で同じ名前を持つ複数のオーディオデバイスが存在することになります。

解決方法: サーバーに接続する前に、外付けのマイクロフォンを外します。

## 12779208/12839029 – クライアント ID コマンドの問題

問題: コマンドオプションを使用してクライアント ID を表示する場合、以下の問題が発生します。

- クライアント ID 文字列がディスプレイウィンドウによって切り詰められます。
- 同じコマンドでデフォルト以外のプロファイルが指定されると、クライアント ID コマンドオプションは機能しません。次に例を示します。

```
ovdc --profile myprofile -i
```

解決方法: Host-N キーの組み合わせを使用してクライアント ID を表示します。

## 12688098 – ミュートオプションを使用するとボリューム設定が保存されない

問題: ボリュームスライダのミュートオプションを選択すると、現在のボリューム設定が保存されません。ミュートオプションを選択解除すると、デフォルトのボリューム設定が使用されます。

解決方法: ミュートオプションを選択解除してから、ボリュームスライダを使用してオーディオレベルを調整します。

## 12798145 – ビデオファイルを再生すると、画面のアーティファクトが表示される

問題: Sun Ray Multimedia Redirection コンポーネントを使用して Windows Media Player でビデオファイルを再生すると、以前のビデオファイルのアーティファクトが画面上に表示されることがあります。この問題は、ビデオ表示のウィンドウサイズが変更された場合に発生します。

解決策: 既知の解決策はありません。

## 12779544 – コマンドオプションを使用してキーボードの国番号を設定できない

問題: `--keyboard-country-code` コマンドオプションを使用してキーボードの国番号を設定しても、機能しません。

解決方法: 「キーボード」タブを使用して国番号を設定します。

## 1.6. ドキュメントの問題

このセクションでは、Oracle Virtual Desktop Client の本リリースに関する既知のドキュメントの問題を紹介します。

### 複数のカードリーダーの使用

『Oracle Virtual Desktop Client ユーザーガイド (バージョン 3.0 用)』第 3 章の「スマートカードを使用してログインすることはできますか」セクションに、複数のスマートカードの使用に関する情報がありません。

このセクションの第 2、第 3 段落は以下のように記載されている必要があります。

「1 台のクライアントコンピュータでデスクトップセッションを開始し、別のクライアントコンピュータからそのセッションを再開することができるモバイルセッションがサポートされています。この機能は ホットデスクング と呼ばれます。

Oracle Virtual Desktop Client は複数のスマートカードリーダーをサポートします。クライアントコンピュータに複数のスマートカードリーダーが接続されている場合は、任意の使用可能なリーダーを使用してホットデスクングを実行できます。セッション開始時に使用したスマートカードリーダーがホットデスクングに使用されます」



## 第2章 Oracle Virtual Desktop Client のインストールとアップグレード

この章では、サポートされるすべてのプラットフォームにおける、Oracle Virtual Desktop Client のインストール、アンインストール、およびアップグレードの手順について説明します。



### 注記

Oracle Java Runtime Environment (JRE) の最新バージョンをクライアントコンピュータにインストールする必要があります。Oracle Virtual Desktop Client のインストール時に、JRE の最新バージョンをダウンロードしてインストールするオプションを使用できます。

### 2.1. Oracle Virtual Desktop Client を Microsoft Windows プラットフォームにインストールする方法



### 注記

Oracle Virtual Desktop Client をインストールするには、クライアントコンピュータの管理者特権が必要です。

1. Oracle Virtual Desktop Client の Windows 用インストールプログラム [vdc.msi](#) をクライアントコンピュータにコピーします。
2. [vdc.msi](#) をダブルクリックし、手順に従います。

Oracle Virtual Desktop Client ソフトウェアがクライアントコンピュータにインストールされ、Oracle Virtual Desktop Client の項目が Windows の「スタート」メニューに追加されます。

### 2.2. Oracle Virtual Desktop Client を Mac OS X プラットフォームにインストールする方法



### 注記

Oracle Virtual Desktop Client をインストールするには、クライアントコンピュータの管理者特権が必要です。

1. Oracle Virtual Desktop Client の Mac 用ディスクイメージファイル [Oracle Virtual Desktop Client.dmg](#) をクライアントコンピュータにコピーします。
2. [Oracle Virtual Desktop Client.dmg](#) ディスクイメージファイルのアイコンをダブルクリックします。  
[Oracle Virtual Desktop Client.mpkg](#) インストーラファイルが Finder ウィンドウに表示されます。
3. [Oracle Virtual Desktop Client.mpkg](#) インストーラファイルをダブルクリックし、手順に従います。

Oracle Virtual Desktop Client ソフトウェアがクライアントコンピュータにインストールされ、Oracle Virtual Desktop Client アプリケーションのアイコンが「アプリケーション」フォルダに追加されます。

### 2.3. Oracle Virtual Desktop Client を Linux プラットフォームにインストールする方法



### 注記

Oracle Virtual Desktop Client をインストールするには、クライアントコンピュータの管理者特権が必要です。

1. Oracle Virtual Desktop Client パッケージをクライアントコンピュータにコピーします。

Oracle Virtual Desktop Client パッケージは、[.rpm](#) および [.deb](#) のパッケージフォーマットのもので使用できます。

2. Oracle Virtual Desktop Client パッケージをインストールします。

- Red Hat Linux プラットフォームの場合。次のコマンドを実行します。

```
# rpm -ivh package-name.rpm
```

- Ubuntu プラットフォームの場合。次のコマンドを実行します。

```
# dpkg -i package-name.deb
```

Oracle Virtual Desktop Client ソフトウェアがクライアントコンピュータにインストールされ、Oracle Virtual Desktop Client アプリケーションのアイコンが「アプリケーション」>「インターネット」フォルダに追加されます。

## 2.4. Oracle Virtual Desktop Client をアンインストールする方法



### 注記

Oracle Virtual Desktop Client をアンインストールするには、クライアントコンピュータの管理者特権が必要です。

1. Oracle Virtual Desktop Client プログラムをアンインストールします。

- Microsoft Windows プラットフォームの場合。Windows の「スタート」メニューで、「すべてのプログラム」>「Oracle Virtual Desktop Client」>「アンインストール」オプションを選択し、画面上の手順に従います。

Oracle Virtual Desktop Client のプログラムファイルとメニュー項目が、クライアントコンピュータから削除されます。

- Mac OS X プラットフォームの場合。「アプリケーション」フォルダを開き、「Oracle Virtual Desktop Client」アイコンをゴミ箱にドラッグします。

- Red Hat Linux プラットフォームの場合。次のコマンドを実行します。

```
# rpm -e ovdc
```

- Ubuntu プラットフォームの場合。次のコマンドを実行します。

```
# dpkg -r ovdc
```

Oracle Virtual Desktop Client のプログラムファイルが、クライアントコンピュータから削除されます。

## 2.5. Oracle Virtual Desktop Client をアップグレードする方法



### 注記

Oracle Virtual Desktop Client をアップグレードするには、クライアントコンピュータの管理者特権が必要です。

1. Oracle Virtual Desktop Client の現在のバージョンをアンインストールします。

その方法については、「[Oracle Virtual Desktop Client をアンインストールする方法](#)」を参照してください。

2. Oracle Virtual Desktop Client のアップグレードしたバージョンをインストールします。

- Microsoft Windows プラットフォームの場合。「[Oracle Virtual Desktop Client を Microsoft Windows プラットフォームにインストールする方法](#)」を参照してください。

- Mac OS X プラットフォームの場合。「[Oracle Virtual Desktop Client を Mac OS X プラットフォームにインストールする方法](#)」を参照してください。

- Linux プラットフォームの場合。「[Oracle Virtual Desktop Client を Linux プラットフォームにインストールする方法](#)」を参照してください。

